



気持ちも新たに 1月9日



1月5日、東部公民館において新春の書き初め大会が行われました。
初開催となった今回は、第三地区・東部公民館の共催で実施され、清水・源池小学校の児童が参加しました。
小学生は「はつゆめ」「雪の正月」など、学校の冬休みの宿題で出された各自の課題に取り組み、満足できる作品が出来るまで一生懸命に練習していました。
講師を務めたのは、東部公民館サークル「楽しい書道教室」に所属する4名の皆さん。書道サークルで講師をしてい

る丸山一夫さんは「子どもは本当にのびのびとした面白い字を書いていて、とても楽しかった。普段はあまり筆を持つ機会はないと思うが、まずは筆の使い方に慣れることがとても大事なので、文字を書くだけでなく、筆を使つて絵を書いたりすることも良いと思う。サークルの名前のおり楽しく書道に取り組む機会を大切にしていほしい。」と話されていました。
また、サークル代表の三代澤健一さんは「人に教えてあげるには、まずは自分自身が勉強しなければならぬ。こうしたことをきっかけにして、志を新たにこれから書道に取り組んでいきたい。」とおっしゃっていました。
参加した児童に感想を聞くと「筆の持ち方から教えてもらって、初めはうまくできなかったけれど、最後に上手に作品が書けたので良かった。もっとうまく書けるように練習したい」と話す子もいました。また保護者の方からは「狭い家の中で習字をするのは大



変だけれども、地域の方に教えてもらいながら宿題も完成したし、親としても嬉しかった。」との声がありました。
今回集まったそれぞれの方にとって良い機会となったのではないだろうか。公民館は、心地よい墨の香りとともに新しい年が始まりました。



連載「わたしの思い出シリーズ」 「少年期の清水町」

山内峯雄(清水西)

今でも時々「信州松本入馬千駄出馬千駄の心意気…」との松本民謡が心の隅から聞こえてきます。父親が町内の若い衆との間で毎月十日会と銘うって飲み会をやり、きまつて唄う十八番でした。松本は朝に千駄の貨物を出し夕に千駄の貨物を収める繁栄ぶりを表したものです。

昔から清水では豊富な湧水を使った製紙や製糸等が盛んでこの繁栄に大きく貢献しました。

全国的に有名な特産品の蚕卵原紙を誇る製紙を業とする家が清水に数十軒あり、全国の製糸業を支えたと言われました。しかし、大正14年生まれの私が子どもの頃には大分減っていました。清水西には数軒続けており、製造した紙を乾かすため張り板に並べて陽に当てる風景がよく見られ、その横でメンコなどして遊んだものでした。

もうひとつの製糸業は明治23年に清水に創設された片倉清水製糸所のほかにも小規模な工場がこの辺のあちこちにありました。しかしこれらは戦時に廃業し、家内副業的な

姿になつていきました。

空き地でやつた野球は軟式ではなく硬式でグローブもバットも揃っていました。これは女鳥羽川より東の四谷や金山町等も一緒に松東青年団野球部のお古を使つたからです。

女鳥羽川ではどじょうがよく取れ田鯉も取れました。時にはうなぎも取れることもありました。

冬は下駄スケートです。松本城のお堀等のほかすぐ近くにも池がいくつかあり、そこでもやりました。

子どもが多くて下級生上級生一緒に6年生が音頭で道祖神祭りや道祖神の火祭りである三九郎を盛大に行いました。小学校は松本尋常高等小学校校源池部(清水部は高等科のみ)でした。義務教育の6年卒

業後5年制の中等学校へ行きましたが、そこでは年2回春秋の農繁期に出征兵士留守宅の農家へ勤労奉仕に出掛けました。

その頃の街並みは、大松寺↓清水橋↓電車道(今の国体道路)までの道に沿ってタバコ、酒、精米、味噌醤油、油、豆腐、魚、薪炭、雑貨、理美容、洋服仕立て、大工、建具、製糸、製紙などを営んでおり、小じんまりとした商工業集落を形成していた感があります。戦後は中区が清水銀座と呼ばれ盛り上がりましたが、当時は西区の方が賑やかだったのです。また、山辺への道はこれ一本なので人は勿論、馬車や荷車(大八車)も通り賑やかでした。

七草会と 道祖神祭り

毎年1月7日は清水善昌寺の七草会にお詣りするのが習わしとなつています。

早朝から本堂が開かれた善昌寺の中庭の中央には微笑んだおびんずる様が安置され、線香の煙があたりを漂います。

勢いよく火が焚かれ、甘酒が振舞われます。お詣りが済んだ善男善女は達磨をもらつて帰ります。

無病息災を願い 夜空を焦がす三九郎



これにあわせて清水西の子どもたちは、ここで道祖神祭りを行つていきます。

境内の入口付近に石造りの双体道祖神、2体の木像男神像、9体のオンマツさま、と祠を並べて行いますが、これらは、貴重な文化財で年1回だけのお披露目です。

この前には賽銭箱を置き、「お賽銭をあげておくれ」と呼びかけ、頂いた方に道祖神のお札を渡します。この子どもたちの伝統行事はどんなに凍みる朝でもどんなに雪が降ろうとも無病息災を祈って続け

られています。今年は始業式のため、早朝はPTAのお母さんたちが代わりましたが、10時頃に学校の配慮で早退した子どもたちが元気にやっていました。



お札を渡す子どもたち